



黄宝(開心自然形)

成果情報

- ・広島県育成カンキツ晩生新品種「黄宝」
- ・酒造好適米の密播疎植栽培
- ・トマトかいよう病の土壌還元消毒

研究紹介

- ・ミニトマト夏秋栽培におけるつやなし果の発生軽減技術
- ・アスパラガス新品種アティカスの特性調査

研究部紹介

「果樹研究部」

成果情報 広島県育成カンキツ晩生新品種「黄宝」

広島県育成の「黄宝」は、「大橘」×四倍体「不知火」の交配によって生まれた三倍体品種で、ほぼ無核（種無し）です。じょうのう膜が柔らかく、手で果皮を剥くことができるブンタン風味の食べやすい品種で、食べ頃は他のカンキツ類の端境期となる4月下旬以降です。果皮、果肉は鮮やかな黄橙色で、果梗部にネックを生じ、果実重が約400gと大果です（図、表）。隔年結果性が低く、かいよう病の発生も少ないため、栽培が容易です。

2013年2月に品種登録となり（第22295号）、JA 広島県果実農業協同組合連合会が苗木生産・販売などを行う予定です。現在、県内島嶼部を中心に試験栽培・販売を行っており、消費者からは高評価を得ています。



図 「黄宝」の果実

表 「黄宝」の果実特性

調査日 (月/日)	果実重 (g)	糖度 (°Brix)	酸度 (%)	貯蔵臭
4/19	444	11.3	1.47	無
5/18	486	11.4	1.27	無
6/18	391	11.6	1.24	無

※栽培地点は尾道市瀬戸田 2018年3月16日に収穫し8℃新聞紙囲いで貯蔵

(果樹研究部)

## 成果情報 酒造好適米の密播疎植栽培

密播疎植栽培は使用苗箱数を3割程度まで減少できる省力低コスト技術として拡大普及しつつあります。ここでは、本県特産作物である酒造好適米で試験をした結果を紹介します。

密播した苗は慣行の苗より草丈が短く葉齢展開も遅いため、乾物重が軽くなります(図1)。

田植後の草丈は、慣行栽培に比べて短く推移する傾向ですが、収穫時の稈長は同程度となります(図2)。茎数は少なく推移しますが、穂数は同程度か、やや少なくなります。この試験での収量性および品質は慣行と同程度の結果となりましたが、地域差や品種の差異について、今後さらに試験を進めていきます。

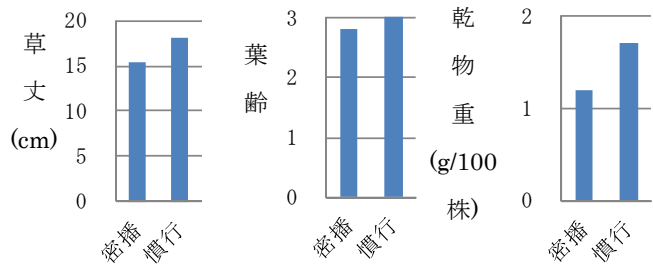


図1 「八反35号」の密播と普通播きの苗

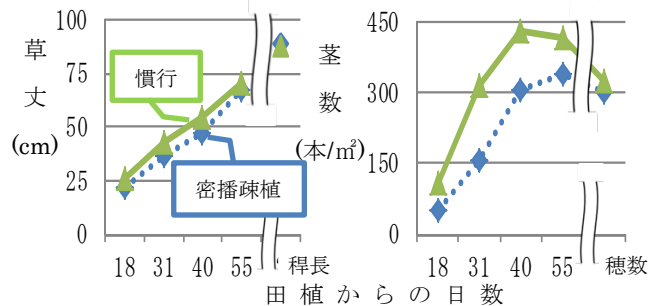


図2 「こいおまち」の密植栽培と慣行栽培の草丈と茎数の推移(各図の最右は稈長および穂数を示す)

(栽培技術研究部)

研究の一部は生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)」の支援を受けました

## 成果情報 トマトかいよう病の土壌還元消毒

夏秋トマト産地で問題となっているかいよう病対策として、農薬に依存することなく産地で入手が容易な有機性資源を用いた土壌還元消毒法を開発しました(右図)。

米ぬかやフスマを土壌混和し、大量の水を施用してビニル被覆すると土壌微生物が急激に増加し土壌が還元状態になります。すると、この状態でしか生息できない嫌気性細菌が生成した有機酸などにより、かいよう病菌が死滅して防除効果が得られます。

青枯病や褐色根腐病が発生した圃場では、湛水後、代かきをすることで防除効果が高まります。

この研究は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業によって行いました。



米ぬかやフスマを均一散布

トラクターでよく混和



湛水後に代かき

ビニル被覆後ハウス密閉

(生産環境研究部)



## 研究紹介 ミニトマト夏秋栽培におけるつやなし果の発生軽減技術

県内中北部では、ミニトマトの夏秋栽培が広がりつつあります (5.0ha)。しかし、近年、果皮の微細な亀裂によって光沢が無く、収穫後に軟化して規格外となるつやなし果が多発生し、問題となっています (図1)。つやなし果は、開花期の高温による受精不良が要因の一つと考えられます。その対策として、高温時の強日射のみ自動で遮光する調光と着果を促進するトマトーンを処理することでつやなし果の発生を軽減しつつ可販果収量が向上することを明らかにしました (図2)。

今年度は、本技術の産地への普及を目指し、西部農業技術指導所と連携して北広島町で現地実証に取り組んでいます。



図1 つやなし果とその果皮表面 (50倍)

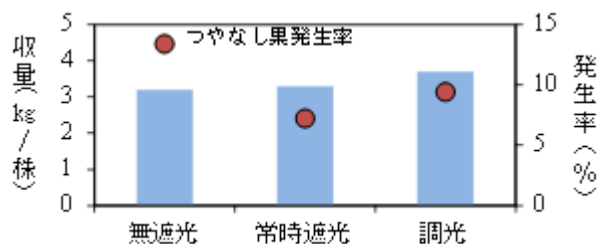


図2 トマトーンと遮光の併用がミニトマトの収量およびつやなし果の発生に及ぼす影響

注) いずれの区もトマトーン 100 倍液を週 1 回処理した。

また、常時遮光区は 2016 年 7 月 19 日～8 月 31 日まで、調光区は 5 月 12 日～10 月 31 日まで遮光率 35% の資材で被覆した。

(栽培技術研究部)

## 研究紹介 アスパラガス新品種アティカスの特性調査

アスパラガスの新しい品種「アティカス (商品名: ウェルカム AT)」(販売元: サカタのタネ) は、太い若茎が収穫できる特徴があります。そこで、本県における「アティカス」の栽培適性をみるため、露地栽培で現行品種の「ウェルカム」との比較調査を行っています。

収穫初年となる 2 年生株では、「アティカス」で太い若茎の割合が高いことが確認できました (図1)。しかし、夏季の高温期に穂先が開きやすく、品質面での課題がみられました。栽培管理面では、同品種は二次側枝の発生が少なく、群落が過繁茂になりにくい特徴もみられました (図2)。

今後、3 年生株でも調査を行い、本品種の広島県への導入可能性を検討する予定です。



図1 「アティカス」(左) および「ウェルカム」(右) の若茎 (撮影日: 2018/4/25)



図2 「アティカス」(左) および「ウェルカム」(右) の群落の繁茂状態 (撮影日: 2018/7/26)

(栽培技術研究部)

## 農業技術センター研究部紹介 (2)

# 果樹研究部


当研究部では、果樹生産現場で役に立つ技術や品種の開発を目指して、次の研究に取り組んでいます。

- 1.産地の立地条件に応じた省力・低コストの高品質安定生産技術の開発。
- 2.優良品種の育成・選抜。
- 3.気象変動に対応できる栽培技術の確立。
- 4.環境保全型農業を推進する病害虫防除技術の確立。

具体的には、農作業が省力化できる樹の仕立て法や棚栽培の低コスト化を進めています。

また、種やトゲが少なく病気に強いレモンや良食味の文旦、イチジクの深刻な病害である株枯病に強い台木を育成・選抜しています。長雨や寒害等、近年の気象変動下においても、毎年安定して品質の高い果実が生産できる技術の開発も行っています。

今後は、ICT や IoT 等を利用した農作業の省力・軽労化にも取り組んでいく予定です。  
新しく開発した技術や品種は、新技術セミナーやホームページ等で広報しています。



新技術セミナー開催風景

果樹研究部 部長 赤阪信二

農業技術センター  
ホームページをご覧ください。

農業技術センターホームページでは、センターニュースのバックナンバーをはじめ、センターに関する最新の情報を提供しています。ご活用ください。

なお、スマートホンにも対応しています。右の2次元バーコード（QRコード<sup>®</sup>）を読み取って、アクセスしてください。いつでもお気軽にご覧になれます。

広島県 農業技術センター

検索

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/30/>



(問い合わせ先)

〒739-0151 東広島市八本松町原 6869  
総務部 ☎082-429-0521  
技術支援部 ☎082-429-0522  
栽培技術研究部 ☎082-429-3066  
生産環境研究部 ☎082-429-2590

〒739-2402 東広島市安芸津町三津 2835  
果樹研究部 ☎0846-45-5471

農業技術センターNews No. 127  
編集発行

 広島県立総合技術研究所  
Hiroshima Prefectural Technology Research Institute

農業技術センター  
平成 31 年 1 月 31 日

お問合せ・ご意見は、技術支援部までお寄せください。  
メールでもお待ちしております。

E-mail [ngcgijutsu@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:ngcgijutsu@pref.hiroshima.lg.jp)